

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	01	01	ほ場整備事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	05	01	ほ場整備事業

実施計画整理番号	
501010101	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	担い手農業経営者及び農業者所有の農地の集団化、耕地の汎用化を図る。	低コスト生産の促進と担い手育成の基盤強化を図るため、大区画の区画整理、排水路の護岸、用水のパイプライン化、暗渠排水施設等の整備を行う。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	関係機関との協議を重ね、平成29年度内の事業完了を目指す。	事業完了の進捗を図るとともに、農地利用集積率が上がるよう支援する。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	78	78	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	78	78	75	0	0	0	0	0	0	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	県営ほ場整備事業負担金	78	78	75	工事等の茂原市負担分を支出した。基盤整備事業(大網白里市瑞穂地区)は、完了した。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		78	78	75	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

境界杭設置工事等一式(21,162千円)に対して、茂原市受益割りにて補助金を交付。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	01	01	ほ場整備事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	05	01	ほ場整備事業

整理番号
501010101

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	境界杭設置工事等が完了。		・地区内目標集積面積: 33.80ha 国への集積申請面積: 33.18ha			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	将来の農業生産を担う効率的かつ安定的な経営体を育成するため、ほ場整備事業において地元負担の軽減を図る。	A:有効である	地元工区内の換地計画に基づく清算事務手続き及び残工事が完了し、成果をあげた。	A:効率的である	農地利用集積率を上げることで、地元への補助金確保が期待できる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	その他	地元工区内において、共有されているため、特になし。	その他	地元工区内において、共有されているため、特になし。	その他	地元工区内において、共有されているため、特になし。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	個別取組については、予定箇所を実施し目標は達成できた。工区内の換地計画に基づく清算事務手続きは完了、残された事業(附帯工事)も完了し、目標達成が出来た。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	基盤整備事業が完了したことにより、当初の目的は達成していると認められる。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	01	02	農道整備事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	05	農道整備事業

実施計画整理番号	
501010201	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	農業者及び農道利用者に対して、幹線道路の早期整備と支線道路の舗装を推進し、既存農道の適正な維持管理に努める。	未舗装、未整備農道の舗装及び整備実施
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
舗装進捗率:44.6%	補助金を活用した農道整備の事業進捗を図る。 【農道2路線 延長253m、面積832㎡を予定】	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	2,912	17,924	17,215	2,912	0	0	2,912	0	0	2,912	0	0	
財源内訳	国補助	千円	1,456	0	0	1,456	0	0	1,456	0	0	1,456	0	0
	県補助	千円	0	1,456	1,452	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	1,000	1,000	1,000	1,000	0	0	1,000	0	0	1,000	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	456	15,468	14,763	456	0	0	456	0	0	456	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	農道の舗装新設	2,912	17,924	17,215	予定箇所の整備については概ね達成した。今後も引き続き整備を実施し、事業の進捗を図る。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,912	17,924	17,215	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
・農道5路線の舗装工事、延長930m、面積2,830㎡を実施した。

DO(実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501010201
5	01	01	02	農道整備事業	5	01	03	05	農道整備事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	舗装工事、延長930m、面積2,830mを実施。				舗装進捗率: 45.3%(0.8ポイント上昇)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A: 妥当である	市が関与すべき事業であり、農業者及び農道利用者が安全・安心に利用出来る整備をしている。また、地元からも要望も多い。	A: 有効である	複数の路線要望がある為、現予算では完了するまで、期間を要する。	B: やや効率的である	路線箇所の選択・集中によって、コスト削減を図る。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A: 実現している	事業実施するうえで、地元水利組合(受益農家)等と協議を行っている。	A: 実現している	事業実施するうえで、地元水利組合(受益農家)等と協議を行っている。	B: 実現に向けて取り組んでいる	他事業による、一部地元施工により、補助金交付での対応が可能。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A: 十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	・舗装工事を実施し、予定通り達成した。工事については、国の補助金を活用し実施しているが、近年補助要望額に対し補助額が削減されている為、財源確保に苦慮している。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A: 十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	農道舗装については、昨年度より進捗率が0.8ポイント上昇しており、当初の目標を達成している。引き続き計画的な農道整備の進捗を図るものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	農道舗装延長				舗装進捗率			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
・補助金を活用した農道整備の事業進捗を図る。 【農道1路線 延長210m、面積630mを予定】				舗装進捗率: 45.4%				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	01	03
用排水施設整備事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	05	02
用排水施設整備事業			

実施計画整理番号	
501010301	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	受益農家に対し、湛水被害の解消と維持管理の軽減を図る。また、安定した用水を供給することにより、農業経営の安定を図る。	農業施設の新設及び改修を行う県営事業に対し、事業費の負担をす。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な事業推進を図るため、千葉県や地元水利組合等と協議を重ねる。 ため池・用排水路整備事業の工事執行率100%。 	<ul style="list-style-type: none"> 県営事業に対しての事業負担(かんがい排水事業など) ため池の整備(藤木堰・粟生野堰) 用排水路整備事業(長谷地先他)

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	47,682	43,395	36,475	29,280	0	0	41,400	0	0	13,000	0	0	
財源内訳	国補助	千円	10,916	10,916	0	12,200	0	0	18,850	0	0	1,750	0	0
	県補助	千円	0	0	6,269	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	15,700	15,700	10,700	9,600	0	0	14,000	0	0	1,300	0	0
	その他	千円	4,035	4,035	2,853	630	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	17,031	12,744	16,653	6,850	0	0	8,550	0	0	9,950	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ため池等整備事業	29,409	24,202	17,965	予定箇所の整備については概ね達成した。今後も継続して整備をし、事業の進捗を図る。
②	用排水路整備事業	5,915	6,835	6,307	予定箇所の整備については概ね達成した。今後も継続して整備をし、事業の進捗を図る。
③	かんがい排水事業(県営・団体営)【両総茂原南地区・両総茂原西部地区】	2,440	2,440	2,344	予定箇所の整備については概ね達成した。事業の進捗が図れるよう、県営事業に対し事業負担を行う。
④	基幹水利施設ストックマネジメント事業(県営)【清水地区】	9,918	9,918	9,859	予定箇所の整備については達成した。
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		47,682	43,395	36,475	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
<ul style="list-style-type: none"> 県営かんがい排水事業負担金(両総茂原西部地区・両総茂原南地区) 県営ため池整備等事業(藤木堰)負担金 県営基幹水利施設ストックマネジメント事業負担金(清水堰) ため池整備工事(粟生野堰、藤木堰、桶尻堰) 用地測量委託(1箇所) 積算委託(粟生野堰) 農業用排水路整備工事(長谷、萱場 L=129.8m) 	

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	01	03	用排水施設整備事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	05	02	用排水施設整備事業

整理番号
501010301

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・県営事業に対して事業負担を行う。 ・3箇所のため池整備実施。 ・用排水路整備(L=129.8m)の実施。 		県営事業の促進を図るため、事業負担の実施。また、ため池及び用排水路の整備実施後、安定した用水供給・農業経営の安定が図れた。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	市が関与すべき事業であり、農業者が農業用施設を安全にかつ効率よく利用出来る整備をしている。	A:有効である	湛水被害の解消、維持管理の軽減を図り、安定した用水供給・農業経営の安定を図る。	B:やや効率的である	県営事業による整備促進及び整備箇所の選択・集中によって、コスト削減を図る。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	事業実施するうえで、土地改良区や地元水利組合(受益農家)等と協議を行っている。	A:実現している	事業実施するうえで、土地改良区や地元水利組合(受益農家)等と協議を行っている。	B:実現に向けて取り組んでいる	他事業での実施が可能か協議検討し、地元管理施設(ため池等)の改修方法など、地元水利組合等と問題の解決に取り組む。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		個別取組みについては概ね目標は達成できた。課題として国・県の補助金を活用して整備を行うものだが、財政状況が厳しいため、引き続き関係機関と協議し、予算確保に努める。			
	企画政策課での評価とその理由					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		ため池整備、用排水路整備及び県営事業については、計画的な整備が行われており、当初の目的を達成していると認められる。引き続き、関係機関と連携し、円滑な事業推進を図るものとする。			
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・県営事業に対しての事業負担 ・ため池の整備箇所 ・用排水路整備事業(整備延長) 		県営事業の事業促進。ため池及び用排水路整備の促進を図り、安定した用水供給・農業経営の安定を図る。(受益農家数)	
30年度における具体的な目標		30年度における具体的な目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・県営事業に対しての事業負担(かんがい排水事業など) ・ため池の整備(栗生野堰・二重堤堰・源田堰) ・用排水路整備事業(長谷地先他) 		<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な事業推進を図るため、千葉県や地元水利組合等と協議を重ね早期完成に努める。 		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	01	03	用排水施設維持管理費

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	06	用排水施設維持管理費

実施計画整理番号	
501010302	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	土地改良区・水利組合・自治会等の共同施行者が管理する農業用施設の維持管理費に対し、地元施行者の軽減を図り、農業基盤の安定を図る。	地元施工による農業用施設の維持管理費に対し、補助金を交付する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	地元農家の安定した農業経営と生活環境の保全を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・農道小用排水補助金交付 (随時) ・排水機場維持管理事業補助金交付 2件 ・千葉県多面的機能支払交付金 25件 ・内谷川沿岸土地改良区補助金交付 1件 ・ため池水位調整管理補助金交付 22件 ・維持管理適正化事業補助金交付 2件

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	45,338	47,273	46,020	48,027	0	0	51,440	0	0	55,513	0	0	
財源内訳	国補助	千円	18,559	18,559	0	20,420	0	0	22,282	0	0	24,143	0	0
	県補助	千円	9,279	9,279	27,834	10,210	0	0	11,141	0	0	12,071	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	1,038	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	17,500	19,435	17,148	17,397	0	0	18,017	0	0	19,299	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	農道小用排水補助金の交付	2,706	3,392	3,308	要望箇所については、概ね予定のとおり交付した。
②	排水機場維持管理補助金の交付	2,786	2,997	2,074	要望箇所については、概ね予定のとおり交付した。
③	内谷川沿岸土地改良区への補助金の交付	294	294	246	要望箇所については、概ね予定のとおり交付した。
④	内谷川(東郷支線)水門等維持管理費	0	0	0	
⑤	ため池水位調整管理補助金の交付	920	920	880	要望箇所については、概ね予定のとおり交付した。
⑥	維持管理適正化事業補助金の交付	1,514	1,514	1,362	要望箇所については、概ね予定のとおり交付した。
⑦	多面的機能支払交付金の交付	37,118	37,118	37,112	要望箇所については、予定のとおり交付した。
⑧	土地改良施設維持管理適正化事業負担金	0	1,038	1,038	要望箇所については、予定のとおり交付した。
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		45,338	47,273	46,020	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・農道小用排水補助金交付 8件
- ・排水機場維持管理事業補助金交付 3件
- ・千葉県多面的機能支払交付金 25件
- ・内谷川沿岸土地改良区補助金交付 1件
- ・ため池水位調整管理補助金交付 22件
- ・維持管理適正化事業補助金交付 1件

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501010302
5	01	01	03	用排水施設維持管理費	5	01	03	06	用排水施設維持管理費	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	・年間を通じた施設補修などの地元要望に対し、補助金交付により支援した。				・地元管理施設について、年間を通じ適正な維持管理を行うことができた。地元補助金交付地区件数=60地区。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	市が関与すべき事業であり、地元関係者の負担軽減を図るものである。	B:やや有効である	意図した成果はほぼ得られた。	B:やや効率的である	老朽化施設が増加することから、将来的にコスト増が予想される。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	補助金交付をするうえで、地元水利組合等と事前に協議を行っている。	A:実現している	補助金交付をするうえで、地元水利組合等と事前に協議を行っている。	A:実現している	実施するうえで、地元水利組合等が主体となって行っている。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	個別取組みの成果は概ね達成されたが、老朽化施設が増加することから、将来的にコスト増が予想される。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	農業用施設の維持管理に対し、地元要望通り補助金を交付していることから、当初の目的は達成していると認められる。引き続き、維持管理を推進するとともに、将来的なコスト負担についても検討を要するものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								
ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	地元主体の土地改良事業等に対し、事業費又は維持費の補助を行う。				地元補助金交付地区件数			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・農道小用排水補助金交付(随時) ・排水機場維持管理事業補助金交付 2件 ・千葉県多面的機能支払交付金 28件 ・ため池水位調整管理補助金交付 22件 ・維持管理適正化事業補助金交付 2件 				地元農家の安定した農業経営と生活環境の保全を図る。				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	01	03
農村地域防災減災事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	05	05
農村地域防災減災事業			

実施計画整理番号	
501010303	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	農業生産の維持、農業経営の安定及び農用地のみではなく、地域住民の暮らしの安全の確保を図り、災害に強い農村づくりを実施する。	自然的、社会的要因で生じた農業用施設の機能低下の回復や災害の未然防止を図るために整備実施。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	事業化に向け、本地区排水機場の改修を検討する。	・排水機場(清水)等調査設計業務

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	22,000	16,848	16,848	23,600	0	0	18,100	0	0	19,500	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	5,400	5,400	5,400	7,000	0	0	1,500	0	0	7,000	0	0
	一般財源	千円	16,600	11,448	11,448	16,600	0	0	16,600	0	0	12,500	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	農村地域防災減災事業【清水地区】	5,400	5,184	5,184	本地区の課題解消を図るため、関係機関と協議の上、新たな事業での実施に向け、協議を実施し方向性が確認できた。事業採択に向け、引き続き協議等を実施していく。
②	農村地域防災減災事業【ため池整備事業】	16,600	11,664	11,664	予定箇所の整備については概ね達成した。今後も継続して整備をし、事業の進捗を図る。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		22,000	16,848	16,848	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・排水検討 一式 ・排水計画 一式 ・工事計画 一式 ・河川協議 一式

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501010303
5	01	01	03	農村地域防災減災事業	5	01	05	05	農村地域防災減災事業	

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況	
清水地区の課題解消を図るため、関係機関と協議の上、新たな事業での実施に向けた改修の検討を実施。		清水地区の課題解消を図るため、関係機関と協議の上、新たな事業での実施に向けた改修の検討が実施できた。	
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由	
A:妥当である	整備規模からも、市が関与すべき事業であり、県営事業で整備を行うための改修検討を実施する。	A:有効である	排水機場など施設の改修を実施し、湛水被害を未然に防ぎ、安定した農業経営の安定を図る。
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由	
A:実現している	事業実施するうえで、関係機関や地元水利組合(受益農家)等と協議を行っている。	A:実現している	事業実施するうえで、関係機関や地元水利組合(受益農家)等と協議を行っている。
「協働」の状況とその理由			
A:実現している	施設管理が地元である為、事業遂行に向け、地元水利組合等と問題の解決に取り組む。		
CHECK (評価)	所管による評価とその理由、課題・問題点		
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	清水地区の課題解消を図るため、関係機関と協議の上、新たな事業での実施に向けた改修の検討を行い、方向性は定まったが、事業化まで至らなかった。県事業の採択までは、期間を要する。	
	企画政策課での評価とその理由		
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	ため池事業については、当初の計画を達成しており、成果が認められる。引き続き、事業採択に向け、関係機関と連携し事業を推進するものとする。	
	政策調整会議での評価とその理由		
(この欄は空欄)			
庁議における方針			
(この欄は空欄)			

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定	30年度成果指標(アウトカム)の設定
	排水機場(清水)事業計画書等の県協議	事業計画の承認(県)
30年度における具体的な目標	30年度における事務事業スケジュール	
<ul style="list-style-type: none"> ・排水機場(清水)事業計画書等作成業務 ・地域ため池の調査設計業務 	事業化に向けた、清水地区排水機場の改修を再検討し、事業計画書等を作成する。 地域ため池の調査設計業務を発注する。	

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	02	01	有害鳥獣駆除事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	08	有害鳥獣駆除事業

実施計画整理番号	
501020101	
総合戦略整理番号	12404

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	有害鳥獣による農作物被害、並びに生活環境の保全及び自然環境を保全するために、駆除や防除を行い、優良農地の保全を図る。捕獲した野生獣の毛皮などを使用した加工品などの副産物化を推進する。	鳥獣被害対策協議会を設立し、負担金を交付することにより、捕獲や電気柵設置などの有害鳥獣対策を実施する。加工品などの副産物化について調査研究を実施する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	有害鳥獣の駆除による農作物、農地被害の軽減に努め、優良農地の確保と地域環境の維持・保全を図る。また、有害鳥獣の捕獲・殺処分増加に伴う職員の負担軽減を図る。	協議会が委託した民間団体による捕獲業務を実施する。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	19,246	19,772	15,215	19,201	0	0	19,201	0	0	19,201	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	2,483	2,483	1,821	2,483	0	0	2,483	0	0	2,483	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	30	30	0	30	0	0	30	0	0	30	0	0
	一般財源	千円	16,733	17,259	13,394	16,688	0	0	16,688	0	0	16,688	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	鳥獣被害防止対策協議会負担金	18,701	18,701	14,148	協議会による従事者委託により円滑に捕獲業務を遂行できた。イノシシ230頭捕、アライグマ253匹、ハクビシン36匹獲した。今後も捕獲強化を図る。
②	野生獣防護柵設置事業	545	1,071	1,067	補助金を交付することで、電気柵1244aを設置し被害軽減を図った。引き続き推進する。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		19,246	19,772	15,215	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

猟友会等の従事者委託によって捕獲業務を実施し、イノシシの捕獲数を増加させた。これにより農作物や農地被害の軽減につながっており、職員の作業負担も軽減されている。しかしながら、個体数は増加しているようで、生息域の拡大が見られ、新たな地区において被害が発生してきている。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	02	01	有害鳥獣駆除事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	08	有害鳥獣駆除事業

整理番号
501020101

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	民間団体への委託によって団体のノウハウを活用した捕獲業務を実施し、イノシシ捕獲数を増加させた。		農作物や農地被害の軽減につながっている。職員の作業負担も軽減されている。 捕獲数(イノシシ230頭、アライグマ253匹、ハクビシン36匹、ニホンジカ1頭、キョン1頭)、わな設置(イノシシ用78基、小動物用72基) 被害面積2.3ヘクタール(わかしお共済調べ)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である 個体数が増加し、生息域が拡大していると見られ、新たな地区においても被害が発生してきているため実施は妥当である。		A:有効である 捕獲を実施することで、個体数増加の抑制、農作物や農地の被害を軽減できる。職員の作業負担も軽減できている。		A:効率的である 民間の団体を活用した捕獲、被害多発地域に重点的に檻、わなを設置し捕獲している。	
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している 檻設置をするうえでは地元自治会や農家組合等と調整をして実施している。		A:実現している 檻設置をするうえでは地元自治会や農家組合等と調整をして実施している。		A:実現している 檻設置、捕獲個体回収時等には地元自治会や農家組合等と立会いのもと実施している。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		民間団体への委託によって団体のノウハウを活用した捕獲業務を実施し、イノシシ捕獲数を増加させた。これにより農作物や農地被害の軽減につながっている。職員の作業負担も軽減されている。しかしながら、個体数が増加し、生息域が拡大していると見られ、新たな地区においても被害が発生してきている。			
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		有害鳥獣の捕獲数、わなの設置個所も増加しており、被害面積が縮小していることから、成果が認められる。引き続き、関係機関と連携し、被害の軽減に努めるものとする。			
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	協議会による捕獲体制の構築、捕獲用檻の増加		捕獲頭数、被害面積の減少	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
協議会が委託する民間企業による捕獲業務を実施する。		有害鳥獣の駆除による農作物、農地被害の軽減に努め、優良農地の確保と地域環境の維持・保全を図る。また、有害鳥獣の捕獲・殺処分の増加に伴う職員の負担軽減を図る。		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	02	02
農業経営基盤強化促進事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	03	02
農業経営基盤強化促進事業			

実施計画整理番号	
501020201	
総合戦略整理番号	11204

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>農業振興地域整備計画に関する重要事項の協議をおこなう。経営感覚の優れた農業者の育成と、経営規模の拡大、収益性の高い施設型農業への転換を支援する。</p> <p>農地中間管理機構を利用して農地の集積・集約を推進する。企業の農業分野への進出を支援する。</p>	<p>茂原市農業振興地域整備促進協議会を開催し整備計画を見直しする。農業近代化資金利子補給金及び農業経営基盤強化資金利子補給金を交付する。</p> <p>農地中間管理機構を利用した者に対して協力金を交付する。企業の農業分野への進出について調査研究を行う。</p>
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
<p>農業振興地域整備計画の全体見直しを実施する。利子補給を実施して担い手の育成を図る。農地中間管理機構による担い手への集積を推進する。</p>	<p>農業振興地域整備促進協議会を開催して重要事項の協議を行う。また、整備計画の全体見直しを実施する。利子補給は、平成29年度の貸付残高に対して利子補給を実施する。農地中間管理機構による集積を推進し、担い手の集積を支援する。</p>	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	7,720	7,720	6,086	8,097	0	0	892	0	0	892	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	332	332	7	332	0	0	332	0	0	332	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	7,388	7,388	6,079	7,765	0	0	560	0	0	560	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市農業振興地域整備促進協議会の開催	180	180	126	農業振興地域整備計画の適切な運用のため、協議会を開催し、重要事項の協議を行った。平成30年度見直しに向け引き続き実施予定。
②	農業振興地域整備計画見直し業務委託	6,833	6,833	5,789	農業振興地域整備計画の見直し業務を実施した。平成30年度に農業振興地域整備計画を策定し運用する。
③	農業近代化資金の利子補給	218	218	158	農業近代化資金借入者への利子補給を実施。今後も継続して実施する。
④	茂原市農業経営基盤強化資金利子補給補助金	65	65	13	農業経営基盤強化資金借入者への利子補給を実施。今度も継続して実施する。
⑤	茂原市機構集積協力金	424	424	0	農地中間管理事業による集積を推進したが、条件に適合する者がいなかった。今後も引き続き事業を推進する。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		7,720	7,720	6,086	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<p>農業振興地域整備計画の適切な運用のため、協議会を開催し、重要事項の協議を行った。農業近代化資金借入者及び農業経営基盤強化資金借入者への利子補給を実施した。</p>

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501020201
5	01	02	02	農業経営基盤強化促進事業	5	01	03	02	農業経営基盤強化促進事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	農業振興地域整備促進協議会を2回開催し、重要事項の協議を行った。担い手への利子補給を実施した。				適切に農振農用地の管理を行うことができた。利子補給により農業者の経営基盤を支えた。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	農用地の保全、担い手の育成支援、農業経営基盤の強化は農業振興の基礎である。	A:有効である	農用地が適切に管理されている。担い手の営農意欲の維持拡大に繋がっている。	A:効率的である	協議会は関係者の意見聴取ができる。利子補給効果的にできる。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	協議会で情報共有を図れる。取組状況を周知することで他の農業者も取組み気運を醸成させる。	A:実現している	協議会は関係者の参加により実施。利子補給農業者自らの取組みを支援するものである。	A:実現している	協議会は関係者の参加により実施。利子補給は農業者自らの取組みを支援するものである。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	農業振興地域整備促進協議会を2回開催して重要事項の協議を行うことができた。利子補給により農業経営を支えることができた。						
	企画政策課での評価とその理由							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	利子補給の実施による、担い手の育成については、一定の成果が認められる。引き続き、農地中間管理機構による担い手確保の周知等の取組みを図るものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	協議会の開催、利子補給者、機構集積				協議会開催日数、利子補給額、集積件数			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
農業振興地域整備促進協議会を開催して重要事項の協議を行う。また、整備計画の全体見直しを実施し、計画を策定する。利子補給は、平成29年度の貸付残高に対して利子補給を実施する。農地中間管理機構による集積を推進し、担い手の集積を支援する。				農業振興地域整備計画の全体見直しを実施し、計画を策定する。利子補給を実施して担い手の育成を図る。農地中間管理機構による担い手への集積を推進する。				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	03	02
稲作生産効率化促進事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	03	03
稲作生産効率化促進事業			

実施計画整理番号	
501030201	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	産業用無人ヘリコプターによる薬剤の空中散布を実施することで農作業の省力化を図り、米の安定的な収穫と品質の向上を図る。	産業用無人ヘリコプターによる病害虫防除を実施する。農家負担額を長生郡内で同一水準にするよう補助金を交付する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
農作業の省力化を図るとともに良質の米の生産を維持する。	茂原市植物防疫協会が実施主体となり、水稻病害虫防除の実施あたって、農家組合長会議を開催する。7月18日～20日に産業用無人ヘリコプターによる農薬散布を市内600.6ヘクタールに実施し、いもち病、カメムシ類、ウンカ・ヨコバイ類の防除を行う。その後、負担金の徴収事務を実施する。	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,260	2,260	2,260	2,277	0	0	2,294	0	0	2,311	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,260	2,260	2,260	2,277	0	0	2,294	0	0	2,311	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市植物防疫協会の運営支援	201	201	201	事業実施に必要な電算システム委託などの事務経費に対して補助を行った。今後も継続して実施する。
②	水稻広域航空防除の事業支援	2,059	2,059	2,059	事業実施に必要な農薬代、散布費用、作業手当などの経費に対して補助を行った。今後も継続して実施する。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,260	2,260	2,260	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・水稻病害虫防除は、茂原市植物防疫協会が実施主体となり、実施するにあたっての農家組合長会議を開催した。 ・7月18日～20日に産業用無人ヘリコプターによる農薬散布を市内592ヘクタールに実施し、いもち病、カメムシ類、ウンカ・ヨコバイ類の防除を行い、良好な結果を得ることができた。 ・負担金の徴収事務を実施した。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	03	02	稲作生産効率化促進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	03	稲生産効率化促進事業

整理番号
501030201

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	7月18日～20日に産業用無人ヘリコプターによる農薬散布を市内592ヘクタールに実施した。		いもち病、カメムシ類、ウンカ・ヨコバイ類の防除は良好な結果を得ることができた。 散布を実施した592ヘクタールにおいては病害虫発生による被害は確認されなかった。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	病害虫の発生を防止し良質な米を生産するために、確実性、安全性に配慮して実施している。	A:有効である	病害虫の発生を防止し良質な米を生産できている。	A:効率的である	3日間での一斉防除により効率的に病害虫を防除できている。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	農家には農家組合長を通じて周知、市民には広報やチラシにより周知している。	A:実現している	農家組合長において申込書等の取りまとめ、散布作業の人員動員を実施している。	A:実現している	農家組合長において申込書等の取りまとめ、散布作業の人員動員を実施している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	米の価格が不安定な情勢の中において、良質な米の生産及び収量の確保は重要であり、病害虫を防除することは必須である。共同防除を実施することで、短期間に一斉防除が行えるため効果的・効率的である。また、農業者の作業負担も軽減できる。課題としては、農家が負担する散布料が近隣町村と比較すると高いので、農家の経済的負担を軽減するためには近隣町村と同水準の負担額にすることが望ましい。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	航空防除を行うことで、農作業の省力化や、米の安定的な収穫の確保が図られたことにより、当初の目標は達成できたと認められる。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	散布面積		病害虫の発生なく生産した面積	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
茂原市植物防疫協会が実施主体となり、水稻病害虫防除の実施あたって、農家組合長会議を開催する。7月18日～20日に産業用無人ヘリコプターによる農薬散布を市内600ヘクタールに実施し、いもち病、カメムシ類、ウンカ・ヨコバイ類の防除を行う。その後、負担金の徴収事務を実施する。		農作業の省力化を図るとともに良質な米の生産を維持する。		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	03	03	農業者育成支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	09	農業者育成支援事業

実施計画整理番号	
501030301	
総合戦略整理番号	12401

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	新規就農者には技術の習得や所得の確保が課題となっていることから、国の新規就農総合支援事業を活用し、千葉県青年就農確保・育成給付金事業給付金の給付を行い、就農意欲の喚起と就農後の定着を図る。	千葉県青年就農確保・育成給付金事業給付金を給付する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
給付金事業を活用して新規就農者の確保・育成を図り、農業従事者の高齢化、後継者不足を解消する。	農業従事者の高齢化が進むなか、新規就農者の技術の習得や所得の確保が課題となっていることから、経営が不安定な就農直後5年以内の所得の確保を図るため、3名に対して給付金を支給する。	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	4,500	5,125	3,981	4,500	0	0	7,500	0	0	7,500	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	4,500	4,500	3,356	4,500	0	0	7,500	0	0	7,500	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	625	625	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	新規青年就農者への給付金の支給	4,500	5,125	3,981	新規就農者3名に交付を行った。引き続き新規青年就農者を支援し、経営の安定と定着を図る。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		4,500	5,125	3,981	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

・農業従事者の高齢化が進むなか、新規就農者の技術の習得や所得の確保が課題となっていることから、経営が不安定な就農直後5年以内の所得の確保を図るため、3名に対して交付金を交付した。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501030301
5	01	03	03	農業者育成支援事業	5	01	03	09	農業者育成支援事業	

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況					29年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
新規就農者3名に対し398万1千円の交付を行った。					新規就農者の経営が不安定な就農直後5年以内の技術の習得や所得の確保を図ることができた。(対象者3名)				
妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
A:妥当である	新規就農者を定着させるため国の交付金制度に沿った交付を行っている。		A:有効である	新規就農者の経営安定と定着を図るため有効な事業である。		A:効率的である	新規就農者に使い道を定めない交付金は、営農活動を継続する上で効率的である。		
「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
A:実現している	新規就農者に営農継続に資する情報を提供するとともに、就農状況を現地確認を行うなど逐次把握している。		A:実現している	新規就農者に営農継続に資する情報を提供するとともに、就農状況を現地確認を行うなど逐次把握している。		A:実現している	新規就農者に営農継続に資する情報を提供するとともに、就農状況を現地確認を行うなど逐次把握している。		
所管による評価とその理由、課題・問題点									
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	農業従事者の高齢化が進むなか、新規就農者の技術の習得や所得の確保が課題となっているなかで、経営が不安定な就農直後5年以内の所得の確保を図るため、3名に対して交付金を交付した。これにより新規就農者の営農継続を支援することができた。課題としては、本市の農業振興を図るためには新規就農者を増やしていかなければならないことから更なる対象者の掘り起こしが必要である。								
企画政策課での評価とその理由									
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	新規就農者の確保に一定の成果が認められる。引き続き、新規就農者の確保及び育成を図るものとする。								
政策調整会議での評価とその理由									
庁議における方針									

A C T (改 善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定					30年度成果指標(アウトカム)の設定				
	交付金の交付額					交付を受けた新規就農者				
30年度における具体的な目標					30年度における事務事業スケジュール					
農業従事者の高齢化が進むなか、新規就農者の技術の習得や所得の確保が課題となっていることから、経営が不安定な就農直後5年以内の所得の確保を図るため、7名に対して交付予定。					交付金事業を活用して新規就農者の確保・育成を図り、農業従事者の高齢化、後継者不足を解消する。					

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	04	01
需給調整推進事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	03	01
需給調整推進事業			

実施計画整理番号	
501040101	
総合戦略整理番号	12401

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>茂原市地域農業再生協議会及び農業者に対して、新規需要米の作付けなど需要に応じた米の生産や、転作作物の作付けによる食料自給率向上の取組を推進し、農業の経営改善を目指す。</p>	<p>茂原市地域農業再生協議会に需要に応じた米の生産や転作作物の作付けによる食料自給率向上の取組推進・確認のための事務経費の補助、取組を実施した農業者には対象となる経費の補助を行う。新規需要米に取組む生産者に対し補助金を交付する。</p>
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
<p>飼料用米等拡大支援事業の申請実績、主食用米の作付実績、経営所得安定対策等交付金の交付申請実績</p>	<p>飼料用米等の転作作物の取り組み者に支援し、生産拡大を図るとともに、農家組合と連携し、需給調整等に関する情報を周知する。また、各種補助事業や経営所得安定対策を推進するため、農家への周知や確認事務等を適切に実施する。</p>	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	13,883	14,682	9,804	13,883	0	0	13,883	0	0	13,883	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	8,939	8,939	4,071	8,939	0	0	8,939	0	0	8,939	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	2,000	2,000	2,000	2,000	0	0	2,000	0	0	2,000	0	0
	一般財源	千円	2,944	3,743	3,733	2,944	0	0	2,944	0	0	2,944	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	飼料用米等の作付け支援	2,390	2,390	1,894	飼料用米等の作付けを実施した農業者に対し支援を実施した。今後も継続的に支援を実施する。
②	経営所得安定対策の推進	1,888	1,888	1,613	経営所得安定対策の推進活動を円滑に実施した。今後も継続的に実施する。
③	地域農業者との連絡調整	898	898	891	農家組合との連携が図れた。今後も、連携を図る。
④	地域活性化を目指した転作作物作付けの推進	2,000	2,000	2,000	転作作物を活用したイベントに対し支援を実施し、地産地消の推進、地域の活性化を図った。今後も転作作物の作付けの推進を行う。
⑤	茂原市新規需要米推進事業補助金	1,950	3,900	2,746	新規需要米を推進し、51名の農業者を支援した。今後も引き続き推進し、取組者を支援する。
⑥	飼料用米等の流通加速化支援	1,424	898	660	飼料用米等の流通体制確立のための施設整備にあたり、農業者を支援した。今後も飼料用米等の生産拡大が必要なため、支援を実施する。
⑦	茂原市農産産地支援事業補助金	3,333	2,708	0	H29年度申請なし。今後も引き続き、施設整備や機械等を支援する。
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		13,883	14,682	9,804	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・飼料用米等の転作作物の作付け者に補助金を交付し、転作の取り組みに対し支援した。 ・農家組合と連携して、需給調整に関する情報等の周知を図った。 ・経営所得安定対策を推進するための農家への周知や確認事務を円滑に実施した。 ・転作作物を活用したイベントに補助金を交付し、地産地消の推進、地域の活性化を図った。

PLAN (計画)

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501040101
5	01	04	01	需給調整推進事業	5	01	03	01	需給調整推進事業	

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況	29年度成果指標(アウトカム)の達成状況						
飼料用米等拡大支援のため、パンフレットの配布や集落等への説明会を実施し、農家組合との連携を図った。農家組合長会議等において経営所得安定対策を推進した。	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">飼料用米等拡大支援事業申請件数</td> <td style="text-align: right;">51件</td> </tr> <tr> <td>飼料用米作付面積</td> <td style="text-align: right;">92.5ha</td> </tr> <tr> <td>経営所得安定対策等交付金申請件数</td> <td style="text-align: right;">81件</td> </tr> </table>	飼料用米等拡大支援事業申請件数	51件	飼料用米作付面積	92.5ha	経営所得安定対策等交付金申請件数	81件
飼料用米等拡大支援事業申請件数	51件						
飼料用米作付面積	92.5ha						
経営所得安定対策等交付金申請件数	81件						

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	国、県が施策として実施する需要に応じた米生産や経営所得安定対策の推進事業である。	A:有効である	農業をとりまく社会経済情勢の変化に応じた支援事業の展開であり有効である。	A:効率的である	国が実施する事業であり、市も適切に実施している。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	各種会議や回覧により農家組合との連携を図り情報の共有を図っている。	A:実現している	関係機関等からなる茂原市地域農業再生協議会による協議を行っている。需給調整の実施者は農業者である。	A:実現している	関係機関等からなる茂原市地域農業再生協議会による協議を行っている。需給調整の実施者は農業者である。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	主食用米の価格安定と食糧自給率の向上を図るためには、米の需給調整は重要な要素であり、飼料用米等の取り組みを支援することで、生産の推進が図れた。農家組合と連携して需給調整等に関する情報を周知することができた。県の補助事業によって経営所得安定対策を推進するための農家への周知や確認事務等を適切に実施できた。飼料用米の作付けが拡大したことで、米価の安定に繋がるかは不透明な部分も多いが、本市の土地質としての転作作物としては飼料用米等の作付けを更に推進する選択肢が有効であると考えられるため、今後も推進するためには上乗せ給付や農業機械導入の補助などを検討しなくてはならない。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	飼料用米等の作付けを実施した農業者に対しての支援の取り組みは、成果が認められる。引き続き、転作の取り組みを支援し、需給調整に努めるものとする。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

30年度活動指標(アウトプット)の設定	30年度成果指標(アウトカム)の設定
飼料用米等拡大支援事業の推進、経営所得安定対策等の会議開催	飼料用米等拡大支援事業の申請実績、飼料用米の作付実績、経営所得安定対策等交付金の交付申請実績

30年度における具体的な目標	30年度における事務事業スケジュール
飼料用米等の転作作物の取り組み者を支援し、生産拡大を図るとともに、農家組合と連携し、需給調整等に関する情報を周知する。また、各種補助事業や経営所得安定対策を推進するため、農家への周知や確認事務等を円滑に実施する。	飼料用米等拡大支援事業の申請実績、飼料用米の作付実績、経営所得安定対策等交付金の交付申請実績

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	04	04	園芸農産振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	04	園芸農産振興事業

実施計画整理番号	
501040401	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
<p>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</p> <p>良質な農産物を生産するためには機械化による生産の効率化が必須となっている。また、現在使用している機械の老朽化も激しく、各生産組合の生産者は高齢化も進んでいる。各組合を支援して産地間競争を制する産地化を目指す。 農業活動において排出される廃プラスチックの適正な処理を推進する。</p>	<p>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</p> <p>各生産組合が実施する施設設置や機械導入、農業振興事業に対して補助金を交付する。 茂原市廃プラスチック対策協議会が実施する適正な廃プラスチック処理に対し補助金を交付する。</p>
<p>平成29年度の具体的な目標</p> <p>生産管理機械、ネギの省力化機械を導入し、産地強化を図る。市場シェアの回復を目指す。</p>	<p>平成29年度スケジュール</p> <p>園芸3団体の産地強化のための機械化の取り組みを支援する。市産業まつりへの出店など園芸振興のための活動を支援する。園芸用廃プラスチックの円滑な回収と適正な処理を行うことで環境保全と施設園芸などの健全な発展を図る。「ちばの園芸」の生産力を強化拡大することを目的に県の補助事業を活用して省力機械等の導入を支援する。</p>

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	2,340	2,340	972	2,340	0	0	2,340	0	0	2,340	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	1,357	1,357	71	1,357	0	0	1,357	0	0	1,357	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	163	163	163	163	0	0	163	0	0	163	0	0
	一般財源	千円	820	820	738	820	0	0	820	0	0	820	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	「輝け！ちばの園芸」による産地整備支援	1,210	1,210	0	平成29年度は採択されなかった。今後も、産地整備のため補助事業により支援を継続する。
②	園芸農産特産地の育成支援	365	365	365	園芸団体の機械化等の取り組みを支援した。産地強化のため支援を継続する。
③	茂原市園芸協会の運営支援	435	435	435	園芸振興のための活動を支援した。園芸振興を継続して実施する。
④	園芸用廃プラスチックの適正処理支援	310	310	152	園芸用廃プラスチックの適正な処理を、県補助事業に基づき実施。産業廃棄物の適正な処理を継続する。
⑤	研修負担金	20	20	20	研修により園芸振興や産地強化を図る。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,340	2,340	972	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・園芸2団体の産地強化のための機械化の取り組みを支援した。
- ・市産業まつりへの出店など園芸振興のための活動を支援した。
- ・園芸用廃プラスチックの円滑な回収と適正な処理を行うことで環境保全と施設園芸などの健全な発展を図った。
- ・園芸農業の生産力を強化拡大することを目的に県の補助事業を活用して省力機械等の導入を支援した。

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501040401
5	01	04	04	園芸農産振興事業	5	01	03	04	園芸農産振興事業	

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
園芸団体の機械化の取り組みを支援した。園芸振興のための活動を支援した。園芸用廃プラスチックの適正処理を行った。				葉たばこ生産組合、茂原蔬菜出荷組合、の機械化に365,000円を補助し産地強化を図った。産業まつりは30出店があり、約2,800名の来場があった。園芸用廃プラスチックの適切な処理(7.25トン処理)により環境保全と施設園芸などの健全な発展を図った。			
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
A:妥当である	産地強化を図るうえでは機械化等の取り組みは必要不可欠である。	A:有効である	意欲のある園芸生産団体を支援することは農業振興を図るうえでは有効である。	A:効率的である	機械化等の取り組みは効率的な生産を図ることができる。		
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
A:実現している	理事会、総会、各打ち合わせにより生産者の意見、行政からの情報、園芸情勢の情報を共有している。	A:実現している	理事会、総会、各打ち合わせにより生産者の意見、行政からの情報、園芸情勢の情報を活用して生産に取り組んでいる。	A:実現している	産業まつりの出店など良質な野菜等の生産販売を通じて地産地消の取り組みなど園芸振興を実践している。		
所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	園芸2団体の産地強化のための機械化の取り組みを支援することができた。産業まつりへの出店など園芸振興のための活動を支援することができた。園芸用廃プラスチックの円滑な回収と適正な処理を行うことで環境保全と施設園芸などの健全な発展を図ることができた。課題としては、収益性の高い園芸農産の推進のため、常に進化している生産用施設・省力化機械の更なる導入が必要である。						
企画政策課での評価とその理由							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各種取組により、園芸団体の産地強化のため、機械化の支援や、園芸用廃プラスチックの回収と適正処理について、当初の目的を達成していると認められる。引き続き、生産力の強化拡大を推進するものとする。						
政策調整会議での評価とその理由							
庁議における方針							

A C T (改 善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定	30年度成果指標(アウトカム)の設定
	各園芸農産振興事業への補助金の交付	導入された機械等による生産性の向上、廃プラスチックの適正処理
	30年度における具体的な目標	30年度における事務事業スケジュール
	園芸6団体の産地強化のための機械化の取り組みを支援する。市産業まつりへの出店など園芸振興のための活動を支援する。園芸用廃プラスチックの円滑な回収と適正な処理を行うことで環境保全と施設園芸などの健全な発展を図る。「ちばの園芸」の生産力を強化拡大することを目的に県の補助事業を活用して省力機械等の導入を支援する。	生産管理機械、ネギの省力化機械を導入し、産地強化を図る。市場シェアの回復を目指す。

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	04	06	畜産振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	04	01	畜産振興事業

実施計画整理番号	
501040601	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 畜産の振興を図るとともに、家畜伝染病に対する自主的な防疫活動を推進して畜産経営の安定を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 自衛防疫の一環である予防接種費用に対する補助を行う。 畜産団体の運営に対する補助を行う。
平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
市内畜産農家を支援するとともに、家畜伝染病の発生を未然に防ぐための防疫事業を実施する。	・畜産農家に対して、牛アカバネ病、チュウザン病等の3種混合の予防接種を実施して家畜伝染病の発生を防ぐ。 ・茂原市酪農組合における共進会の参加などを支援する。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	175	175	171	175	0	0	175	0	0	175	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	175	175	171	175	0	0	175	0	0	175	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市家畜伝染病予防会の支援	100	100	100	牛アカバネ病、結核病、ブルセラ病、ヨーネ病等の予防接種等を実施した。今後も継続して実施する。
②	茂原市酪農組合の支援	32	32	28	家畜排せつ物の管理の適正化、利用促進の振興、長生郡市共進会等の事業に対する支援を実施した。今後も継続して実施する。
③	長生地域畜産振興協議会への参加	43	43	43	長生地域における畜産の情報交換と連絡強化を図り畜産振興のための調査研究を行った。今後も継続し実施する。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		175	175	171	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・畜産農家に対して、牛アカバネ病、結核病、ブルセラ病、ヨーネ病等の予防接種等を実施して家畜伝染病の発生を防いだ。
- ・茂原市酪農組合における共進会の参加などを支援して酪農振興を図った。

PLAN (計画)

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501040601
5	01	04	06	畜産振興事業	5	01	04	01	畜産振興事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	畜産農家と茂原樟陽高校に対して、牛アカバネ病、3種混合等の予防接種等を実施した。茂原市酪農組合の総会等を開催した。				予防接種等の効果により市内では家畜伝染病の発生は、認められなかった。共進会は、巡回審査にて行い。市内酪農家から1頭出展し、優等賞を獲得して県共進会にも出展した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	防疫事業は畜産振興を図る上で必要不可欠な事業である。	A:有効である	予防接種等の実施により確実に家畜伝染病を防ぐ対策をとることができる。	A:効率的である	予防接種等の実施により確実に家畜伝染病を防ぐため効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	酪農組合内において情報の共有を図っている。	A:実現している	予防接種や共進会は畜産農家や関係機関と連携して実施している。	A:実現している	長生地域における連携強化を図り、畜産振興が実施している。酪農組合との連携を図っている。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	畜産農家に対して、牛アカバネ病、3種混合等の予防接種等を実施して家畜伝染病の発生を防いだ。また、茂原市酪農組合における活動を支援して酪農振興を図ることができた。課題としては、畜産農家の減少に対応するため、畜産振興に資する事業を推進すること、万が一の家畜伝染病(高病原性鳥インフルエンザなど)の発生に備えた防除体制の確立、事業費の確保が挙げられる。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	予防接種等により、伝染病を未然に防いでおり、成果は認められる。引き続き、防疫事業を継続し、伝染病の感染を防ぐものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	予防接種等の実施、茂原市酪農組合の会議開催				家畜伝染病の予防、共進会参加などの件数			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・畜産農家に対して、牛アカバネ病、チュウザン病等の3種混合の予防接種を実施して家畜伝染病の発生を防ぐ。 ・茂原市酪農組合における共進会の参加などを支援する。 				市内畜産農家を支援するとともに、家畜伝染病の発生を未然に防ぐための防疫事業を実施する。				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	04	07	環境にやさしい農業推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	12	環境にやさしい農業推進事業

実施計画整理番号	
501040701	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	農業の持続的発展を図るためエコファーマーの認定促進や有機農業などの環境にやさしい農業を推進する。また、環境負荷の軽減に配慮した営農活動に取り組む農業者団体等の追加的コストを支援し、環境にやさしい農業の推進を図る。	自然環境の保全に資する農業生産活動を実施する生産者や農業者団体に補助金(交付金)を交付する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みと併せて行うカバークロープの作付により環境にやさしい農業を維持する。	化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みと併せて行うカバークロープの作付により環境にやさしい農業を実践する農業者団体1団体に対して支援を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	294	294	87	320	0	0	360	0	0	400	0	0	
財源内訳	国補助	千円	147	147	0	160	0	0	180	0	0	200	0	0
	県補助	千円	73	73	65	80	0	0	90	0	0	100	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	74	74	22	80	0	0	90	0	0	100	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	環境保全型農業直接支払金の交付	294	294	87	化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みにカバークロープを組み合わせた取り組みに支援した。今後も対象者に対し支援する。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		294	294	87	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みにカバークロープを組み合わせた取り組みに支援した。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	04	07	環境にやさしい農業推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	12	環境にやさしい農業推進事業

整理番号
501040701

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	環境農業直接支払は農業者団体1団体に対して支援した。		農業者団体1団体の環境にやさしい農業を実施した。 面積:1ha			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	環境直接支払は環境にやさしい農業の基礎である。	A:有効である	環境と調和した農業は必要である。	A:効率的である	環境直接支払については、環境にやさしい農業が効率的にできる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	取り組み状況を周知することでほかの農業者も取り組み気運を醸成させる。	A:実現している	環境直接支払は農業者自らの取組みを支援するものである。	A:実現している	環境直接支払は農業者自らの取組みを支援するものである。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	環境保全型農業直接支払により、農業での実践を支援し自然環境の負荷軽減を図った。				
	企画政策課での評価とその理由					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	平成29年度より開始した事業であり、初年度で1団体への支援があったことは、成果が認められる。引き続き、周知するとともに、環境にやさしい農業を推進するものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	カバークロープの作付に対し支援する。		カバークロープ取組み面積	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みと併せて行うカバークロープの作付により環境にやさしい農業を維持する。		化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みと併せて行うカバークロープの作付により環境にやさしい農業を実践する農業者団体に対して支援する。		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	04	08	茂原六斎市再活性化事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	10	茂原六斎市再活性化事業

実施計画整理番号	
501040801	
総合戦略整理番号	32104

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	茂原六斎市再活性化協議会が実施する様々な活動やイベント等により、歴史ある茂原六斎市の再活性化を図る。 農業者による新鮮野菜等の新たな販路となることで農業生産を豊かなものにする。	茂原六斎市再活性化協議会の実施する活動を推進するため補助金を交付する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの開催により六斎市を活性化する。 ・出店者の加入促進をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催会議などを開催し、歴史ある六斎市の活性化を図る。 ・イベントの開催。 ・新規出店者の加入促進。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	150	150	150	150	0	0	150	0	0	150	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	150	150	150	150	0	0	150	0	0	150	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原六斎市再活性化協議会の支援	150	150	150	看板の建替え、イベントを開催し活性化を図った。今後も支援を継続する。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		150	150	150	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体との共催でイベントを開催した。 ・広報等に掲載して、出店者を募集した。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501040801
5	01	04	08	茂原六斎市再活性化事業	5	01	03	10	茂原六斎市再活性化事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況					29年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	イベントを開催した。(1回)					イベント時には出店数が13店増加した。				
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	歴史ある六斎市の衰退に歯止めをかけ、生産者と消費者の交流の場を確保することが出来るため有効である。		A:有効である	生産者と消費者の交流の場を確保することが出来るため有効である。		A:効率的である	再活性化が図れるため、効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	広報、チラシ等による情報の共有が出来ている。		A:実現している	生産者と消費者(市民等)が直接交流出来ている。		A:実現している	生産者と消費者(市民等)が直接交流し、問題等の解決に取り組んでいる。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体との共催でイベントを開催。生産者と消費者(市民等)の交流を図った。 ・広報等に掲載し出店者を募集したところ、イベント時の出店数が増加した。 								
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	関係団体とのイベントを開催したことにより、再活性化に寄与しており、成果が認められる。引き続き、生産者と消費者の交流の場を創出し、六斎市の活性化を図るものとする。								
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										
ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定					30年度成果指標(アウトカム)の設定				
	協議会の活動やイベントを推進する					出店数の増加 にぎわいの増加				
30年度における具体的な目標					30年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催会議などを開催し、歴史ある六斎市の活性化を図る。 ・イベントの開催。 ・新規出店者の加入促進。 					<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの開催により六斎市を活性化する。 ・出店者の加入促進をする。 					

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	05	01	農産物直売所運営支援費

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	07	農産物直売所運営支援費

実施計画整理番号	
501050101	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	消費者に地元で収穫された新鮮で安全安心な農作物を供給する直売所の充実を図る。併せて、直売所の需要に合わせた少量多品種の農作物生産を推進することと、生産者の所得安定と農業振興を図る。	安定的な農作物の供給を図るため、直売所の適切な維持管理に努める。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	通年で安全・安心な農産物を消費者に供給する。本市農業の活性化の拠点としての役割を担う。	継続して用地を借り上げるにより、新鮮で安全・安心な農作物を消費者に供給する直売所の安定した運営を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	784	784	784	784	0	0	784	0	0	784	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	686	686	686	686	0	0	686	0	0	686	0	0
	一般財源	千円	98	98	98	98	0	0	98	0	0	98	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	直売所施設用地の借上	744	744	744	用地を借り上げるにより直売所の安定した運営ができた。今後も地産地消を進め農業振興を図る。
②	農産物直売所運営支援	40	40	40	生産者、消費者のニーズ等を把握し農業振興・地産地消及び直売所の安定運営を図る。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		784	784	784	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
・用地を借り上げるにより、新鮮で安全・安心な農作物を消費者に供給する直売所の安定した運営ができ、併せて地産地消の推進を図った。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501050101
5	01	05	01	農産物直売所運営支援費	5	01	03	07	農産物直売所運営支援費	

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況	29年度成果指標(アウトカム)の達成状況
借上げ地 茂原市法目807-1 月額 62,000円 面積 1,527㎡	直売所の売上げ額 1億8,449万920円 来客数 149,034人 組合員数 164人

妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由
A:妥当である 生産者、消費者のニーズとして直売所の設置は必要であり、これにより農業振興が図られる。	A:有効である 新鮮で安全・安心な農産物を供給する直売所の設置は農業振興を図る手段として有効である。	A:効率的である 多数の生産者が加入している直売所を支援することは効率的である。

「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由
A:実現している 直売所の運営会議において生産動向や行政情報などの連携を図っている。	A:実現している 直売所だけでなく市の各種イベントにも出店し、地産地消や農業振興を図っている。	A:実現している 直売所だけでなく市の各種イベントにも出店し、地産地消や農業振興を図っている。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	用地を借り上げるにより、新鮮で安全・安心な農産物を供給する直売所の安定した運営ができ、併せて地産地消の推進を図った。なお、施設等が手狭なため平成30年度から規模を拡大して地域農業の拠点施設となるよう更なる充実を図る。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	用地を借り上げるにより直売所の安定した運営ができ、成果が認められる。引き続き、地産地消を進め農業振興を図るものとする。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

30年度活動指標(アウトプット)の設定	30年度成果指標(アウトカム)の設定
借上げ地代・土地面積	直売所の売上げ額、来客数、組合員数

30年度における具体的な目標	30年度における事務事業スケジュール
新店舗と合わせて継続して用地を借り上げるにより、新鮮で安全・安心な農産物を消費者に供給する直売所の安定した運営を行う。	通年で安全・安心な農産物を消費者に供給する。本市農業の活性化の拠点としての役割を担う。

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	05	01	農産物直売所を起点とした魅力ある農業創出事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	11	農産物直売所を起点とした魅力ある農業創出事業

実施計画整理番号	
501050102	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	市内農産物の販売、地域の交流、担い手育成の拠点となる施設を形成し、付加価値の高い農産物の栽培、6次産業やブランド化により、生産者の農業所得の向上や活力の向上による、本市農業の活性化を図る。	地産地消や食の安全の確保を推進し、生産者の所得及び活力の向上が図れる農産物直売所の建設
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	・農産物直売所の完成	・詳細設計業務委託の発注 ・建築工事監理業務委託及び直売所建設工事の発注 ・直売所備品購入

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	22,600	135,600	123,485	1,300	0	0	1,300	0	0	1,300	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	55,000	53,673	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	55,000	48,900	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	22,300	22,300	0	1,300	0	0	1,300	0	0	1,300	0	0
	一般財源	千円	300	3,300	20,912	0	0	0	0	0	0	0	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	農産物直売所増築工事	22,600	22,600	16,139	農産物直売所の敷地築造工事を実施した。今後は、直売所を起点として、地産地消や食の安全の確保を推進する。
②	農産物直売所の建設	0	113,000	107,346	約100坪の農産物直売所を建設した。今後は、直売所を起点として、地産地消や食の安全の確保を推進する。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		22,600	135,600	123,485	

<p>平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)</p> <p>・H28年度からの繰越事業で実施し、H29年度で完了。</p>

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	05	01	農産物直売所を起点とした魅力ある農業創出事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	11	農産物直売所を起点とした魅力ある農業創出事業

整理番号
501050102

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	農産物直売所の新店舗が完成。		平成29年度に新店舗が完成したことで、平成30年度から農業振興及び地産地消の推進強化を図る。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	直売所の設置により農業振興、活性化が図られる。	A:有効である	新鮮で安全・安心な農産物を供給する直売所の設置は、農業振興の観点から有効である。	A:効率的である	交付金を活用した直売所建設であり効率的である。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	既存店舗の消費者等の意見収集	A:実現している	農業者等の意見収集	A:実現している	農業者等の意見収集
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	H29年度に新店舗が完成し、H30年度から拡大した直売所を起点に地産地消や食の安全確保を推進するとともに生産者の所得及び活力の向上が図られる。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	平成29年度中に新店舗が竣工されたことにより、当初の目的は達成されたと認められる。引き続き、地域の交流、担い手育成の拠点となる施設を形成するとともに、付加価値の高い農産物の栽培、6次産業やブランド化により、生産者の農業所得の向上や活力の向上による活性化を図るものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						
ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定			30年度成果指標(アウトカム)の設定		
30年度における具体的な目標			30年度における事務事業スケジュール			

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	02	02	01	企業立地促進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	06	企業立地促進事業

実施計画整理番号	
502020101	
総合戦略 整理番号	11101

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	茂原には工業団地を核とした企業立地を促進し、本市における就業機会の拡大、定住人口の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 企業誘致活動に有効な企業データを早期に取得し、企業動向を踏まえた効果的かつ効率的な企業訪問を実施する。 進出した指定事業者に対し奨励金を交付する。 茂原には工業団地の早期分譲を目指し整備を推進する。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> 茂原には工業団地の完売に向けて、企業訪問や企業誘致セミナーに参加をし、PRを積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問 (株)ジャパンディスプレイの奨励金の交付 茂原には工業団地負担金(調査設計、道路工、公園緑地工、調整池法面緑化工、道路案内標識設置工、給水工事、雨水・汚水排水工、調整池工) 	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	704,135	861,863	851,205	201,048	0	0	17,402	0	0	76,048	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	331,500	463,700	460,900	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	372,635	398,163	390,305	201,048	0	0	17,402	0	0	76,048	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	企業誘致活動	1,135	1,135	363	企業訪問や千葉県主催の企業誘致セミナーに参加をし、茂原には工業団地完売に向けPRした。引き続き、本市への企業誘致を実施していく。
②	企業立地奨励金の交付	200,000	200,000	200,000	計画通りに奨励金を交付した。引き続き、条例に基づき奨励金を交付する。
③	茂原には工業団地造成	503,000	660,728	650,842	概ね計画通りに造成工事が完了し、道路、緑地、調整池などの公共施設が市へ引き継がれた。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		704,135	861,863	851,205	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

①大阪、東京、愛知及び県内の各企業へ企業訪問を実施した。
 ②(株)ジャパンディスプレイに200,000,000円の奨励金を交付した。
 ③茂原には工業団地負担金(道路工事、調整池工事、緑地工事等)650,841,812円を負担した。

DO
(実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	502020101
5	02	02	01	企業立地促進事業	6	01	02	06	企業立地促進事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況					29年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> ・茂原市企業立地促進条例に基づき奨励金を(株)ジャパンディスプレイに交付した。 ・茂原にいはる工業団地負担金(現年分、繰越明許分)を負担した。 ・積極的な企業訪問を実施した。 					<ul style="list-style-type: none"> ・茂原にいはる工業団地が完売し、雇用及び税収の確保が図られた。 ・概ね計画通りに茂原にいはる工業団地の造成工事が完了した。 				
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
	A:妥当である 千葉県と共同で進めている茂原にいはる工業団地への企業誘致に必要不可欠であり、総合計画においても企業誘致の推進が位置付けられていることから妥当である。			A:有効である 企業誘致が成し遂げられることにより、雇用の場の確保と定着人口の増加が図られることから有効である。			A:効率的である 計画通りの造成工事と分譲区画の早期完売により非常に効率的に事業が進められた。			
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
	A:実現している ホームページや広報を用いて情報の共有を図った。			A:実現している 工事内容に応じて回覧文を自治会等に配布し意見を取り入れた。			A:実現している 地元自治会をはじめ、多くの方の協力のもと造成工事が進められてきた。			
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)			茂原にいはる工業団地造成工事は、概ね計画通りに完了し、道路、調整池、緑地などの公共施設が市へ移管された。また、分譲区画についても早期完売となった。						
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)			茂原にいはる工業団地の竣工及び分譲区画の早期完売により、当初の目的は達成している。引き続き、企業立地を促進し、本市における就業機会の拡大、定住人口の増加を図るものとする。						
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

A C T (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定					30年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)ジャパンディスプレイ200,000,000円の奨励金の交付 ・企業交流会 					<ul style="list-style-type: none"> ・茂原にいはる工業団地へ進出する企業と地元既存企業との交流会を実施したことにより、進出企業と地元既存企業との交流を図る。 				
30年度における具体的な目標					30年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・茂原にいはる工業団地へ進出する企業と地元既存企業との取引機会の創出、地元経済の活性化を図るため企業交流会を行う。 					<ul style="list-style-type: none"> ・企業交流会の実施 ・(株)ジャパンディスプレイの奨励金の交付 ・企業訪問 					

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	02	02	02
起業・創業支援事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
6	01	02	03
起業・創業支援事業			

実施計画整理番号	
502020201	
総合戦略整理番号	11201

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>創業者を支援することで本市における開業率を向上させ、地域の活性化、雇用の確保を図る。</p>	<p>新たに起業を目指す創業者に対し、創業しやすい環境を整備するとともに、補助金の交付により費用負担の軽減を図る。 特定創業支援事業としての、創業者及び創業後間もない事業者を対象とした、創業するために不可欠な事項を修得できるセミナーの開催を支援する。</p>
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> 新規創業者を対象に、創業に係る経費の一部を補助する。 起業に関する実践的な知識の習得の場を提供する。 同じ志を持つ仲間との情報交換会やネットワークづくりの場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規創業者に対し補助金を交付する。 茂原商工会議所と連携し「茂原創業塾」を開講。 茂原商工会議所と連携し「ビジネスプランコンテスト・起業家交流会」を開催。 	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,507	2,259	1,851	2,357	0	0	2,357	0	0	2,357	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,507	2,259	1,851	2,357	0	0	2,357	0	0	2,357	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	総合支援補助金の交付	1,500	1,500	1,099	補助金の交付件数:4件 今後も継続する。
②	創業支援充実のための研修会等への参加	7	7	0	実績なし。今後も、説明会に参加し国の創業支援の情報収集する。
③	創業者対象セミナーの支援	0	752	752	茂原商工会議所が実施した創業塾を支援した。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,507	2,259	1,851	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> 茂原商工会議所と協力し「茂原創業塾」を開催。 市内金融機関及び、茂原商工会議所と連携し、「ビジネスプランコンテスト、起業家交流会」を開催。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	502020201
5	02	02	02	起業・創業支援事業	6	01	02	03	起業・創業支援事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	新規創業者に対する補助金を交付することで、事業者の経済的な負担を軽減した。				4人に対し、1,099,000円の支援を実施した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	創業支援事業計画に基づく創業支援であり、茂原市が関与するのは妥当である。	A:有効である	企業者の経済的負担を軽減できる。	A:効率的である	支援対象事業に対しての補助金交付であるため。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	支援制度をホームページ、パンフレットで公表している。	C:実現の余地がない		A:実現している	ビジネスプランコンテスト、起業家交流会を市内金融機関及び茂原商工会議所との連携により実施した。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	創業者に対して、創業の各段階に応じた支援を、茂原商工会議所及び市内金融機関と連携を強化し実施した。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	創業支援の補助金を交付することにより、創業者の環境整備に成果があったと認められる。引き続き、支援を継続し、地域の活性化及び雇用の創出を図るものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金のPR ・茂原商工会議所と連携しての新規創業者の支援 				<ul style="list-style-type: none"> ・補助金活用件数・金額 			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・新規創業者を対象に、創業に係る経費の一部を補助する。 ・起業に関する実践的な知識の習得の場を提供する。 ・同じ志を持つ仲間との情報交換会やネットワークづくりの場を提供する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・新規創業者に対し補助金を交付する。 ・茂原商工会議所と連携し「茂原創業塾」を開講。 ・茂原商工会議所と連携し「ビジネスプランコンテスト・起業家交流会」を開催。 				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	02	02	02	中小企業者等振興総合支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	02	中小企業者等振興総合支援事業

実施計画整理番号	
502020202	
総合戦略整理番号	11202

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	企業が実施する主体的な取り組みを、幅広い分野で総合的に支援することにより、本市の中堅・中小企業の持続的な成長や振興を図る。	中小企業者等が抱える様々な問題解決のための取り組みに対して、補助金の交付により費用負担の軽減を図る。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	産業振興の活性化のため、経営向上を目指した取組を行う中小企業者、新規創業者に対し補助金を交付する。	4月 補助金PRのためのパンフレットの作成。 9月 茂原商工会議所と協力し「茂原創業塾」を開講。 12月 ビジネスプランコンテスト・起業家交流会開催。 随時 制度の周知を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	3,824	3,824	904	3,824	0	0	3,824	0	0	3,824	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,824	3,824	904	3,824	0	0	3,824	0	0	3,824	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	国際規格等の認証取得支援	450	39	300	国際規格の認証取得支援:1件 今後も継続する。
②	産業財産権取得支援	150	150	0	実績なし 今後も支援を受けやすい体制を検討する
③	製品や技術のPR支援	900	750	0	実績なし 今後も支援を受けやすい体制を検討する
④	企業情報の発信支援	300	509	509	ホームページの新規作成及び改修支援:4件 今後も継続する。
⑤	新商品の開発支援	300	300	0	実績なし 今後も支援を受けやすい体制を検討する
⑥	人材確保・育成支援	600	600	89	従業員の資質向上支援:2件 今後も継続する。
⑦	外国人観光客の受入環境整備支援	900	900	0	実績なし 今後も支援を受けやすい体制を検討する
⑧	中小企業支援制度の広報・周知	211	211	0	パンフレット作成の実績無し。今後も支援制度の周知を図る。
⑨	相談支援の充実のための研修会等への参加	13	13	6	国の制度説明会に参加した。今後も情報収集に努める
⑩		0	0	0	
事業費計		3,824	3,824	904	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・経営向上を目指した取組を行う中小企業者に対して補助金を交付した。 ・支援制度に関する相談等の対応。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	502020202
5	02	02	02	中小企業者等振興総合支援事業	6	01	02	02	中小企業者等振興総合支援事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	中小企業者に対する補助金を交付することで、事業者の経済的な負担を軽減した。				7社に対し、898,000円の支援を実施した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	茂原市の商工業の振興を図るため、茂原市が関与するのは妥当である。	A:有効である	事業者の経済的負担を軽減できる。	A:効率的である	支援対象事業に対しての補助金交付であるため。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	支援制度をホームページ、パンフレットで公表している。	C:実現の余地がない		C:実現の余地がない			
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	支援制度の利用率は低位ではあるが、中小企業者等のニーズに応じた支援を行う必要がある。							
企画政策課での評価とその理由								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	幅広い分野での支援メニューを設けているが、実績がない補助金もあるため、見直し等の検討及びPRも含めた周知方法を検討するものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・中小企業者等のニーズに応じた総合的な支援				・補助金活用件数・金額			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
中小企業者が取り組む販売促進活動や商品(技術)開発、雇用人材育成、情報発信など、幅広い分野において包括的に支援を行う。				・経営向上を目指した取組みを行う中小企業者に対し補助金を交付する。 ・随時、制度の周知を行う。				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	02	02	02	ドローン利活用調査業務

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	06	茂原市総合戦略推進事業

実施計画整理番号	
502020203	
総合戦略整理番号	12101

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	新技術であるドローンへの関心を高め、ドローンやそれに関連する技術や人材を利活用して、新たな産業の創出や業務の効率化を促進する。	ドローン関連産業の個別事例、起業や効率化に関する調査、研究市内外に向けたドローン普及映像コンテンツの制作
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	ドローンによる地域課題の解決、事業創出や効率化の推進のため、事業者や市民を対象とし、ドローンの知識を深めるためのセミナーやイベントを開催し、今後の利活用の方向性を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内事業者や市民がドローンについての知識習得やドローン産業の現状や展望等の知見を得るためのセミナーを開催する。 ・ドローンの有効性や認知度を高めるためのイベントを開催する。 ・セミナーやイベント啓発のための媒体を作成する。 ・上記に関する報告書の作成

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,000	2,000	1,998	0	0	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	国補助	千円	1,000	1,000	999	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,000	1,000	999	0	0	0	0	0	0	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ドローンの有効利活用調査	2,000	2,000	1,998	セミナー、啓発イベントを開催し、延べ590名が参加。今後もドローンの活用について検討する。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,000	2,000	1,998	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・市内事業者や市民がドローンについての知識習得やドローン産業の現状や展望等の知見を得るためのセミナーを開催 ・ドローンの有効性や認知度を高めるためのイベントを開催 ・セミナーやイベント啓発のための媒体を作成 ・上記に関する報告書の作成

D
O
(
実
施
)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	502020203
5	02	02	02	ドローン利活用調査業務	2	01	09	06	茂原市総合戦略推進事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンについての知識習得やドローン産業の現状や展望等の知見を得るためのセミナーやイベントの開催及び参加人数 ・ドローンの利活用方法の検討 		<p>平成29年11月25日(土)にアスモにてもばらドローンEXPO2017を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リレー形式のセミナー4回開催 延べ160名参加・デモフライト2回延べ250名参加 ・親子体験会延べ150名参加・フライトシミュレーター30名参加 ・フライヤー配布市内商工業者1300枚及び小中学校6200枚 ・報告書の作成 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	市内にドローン関連企業もあり、先端技術であるドローンによる地域産業の活性化による地方創生のため。	A:有効である	約600名の来場者やセミナー受講者のアンケートにより、ドローンの知識や認知度の向上や今後の方向性が検討できた。	A:効率的である	ドローン業界の最大手団体である(社)日本UAS産業振興協議会の事務局である(株)ブルーイノベーションにより効率的な業務が実施できた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	事業について市内商工業者や小中学校に周知またWEBやプレスリリースにより情報提供した。	A:実現している	約600名の来場者やセミナー受講者にアンケートを実施した。	A:実現している	市内企業である双葉電子工業(株)や茂原商業開発(アスモ)の協力により開催している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	当市は、ラジコンプロポのトップシェアを持つ双葉電子工業(株)が所在しており、ラジコン産業に馴染みが深い土地柄といえ、ドローンを活用した産業振興・地域活性化を展開することは、効果があった。終了後のアンケートなどから、より具体的なビジネスに直結するようなテーマで行う必要がある。					
企画政策課での評価とその理由						
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	ドローンイベントの開催において、ドローンの知識や関心を高めたことについては、評価ができる。今後は、ドローン産業とのビジネスマッチング等を通じて、地域産業の活性化に繋げるものとする。					
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定		
	<ul style="list-style-type: none"> ・市内事業者や市民がドローンについての知識習得やドローン産業の現状や展望等の知見を得るためのセミナーを開催及び参加人数 ・ドローンの有効性や認知度を高めるためのイベントを開催及び参加人数 ・セミナーやイベント啓発のための媒体の作成 ・上記に関する報告書の作成 		<ul style="list-style-type: none"> ・ドローン技術への関心を深めた人数 ・ドローン技術により地域課題の解決、事業創出や効率化の件数 		
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール			
<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンを活用した新たな産業や雇用の創出、業務の効率化を促進するため、昨年の利活用調査の結果に基づきより専門的な技術見本市及びビジネスマッチングの開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンの最新技術の展示などの技術見本市を開催。 ・展示企業による技術の特徴やサービスのデモンストレーションの開催。 ・ドローンを活用したビジネスマッチングを開催。 ・啓発のための媒体を作成する。 ・上記に関する報告書の作成 			

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	03	01	02
商店街活性化推進事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
6	01	02	04
商店街活性化推進事業			

実施計画整理番号	
503010201	
総合戦略整理番号	12301

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	商店街の環境整備と活性化により、まちの活気と賑わいを創出する。	商店街が共同で実施する販売促進事業や空き店舗対策等を支援するとともに、駐車場や街路灯など、共同施設の費用負担の軽減を図ります。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	商店街が実施する活性化事業を支援するとともに、経済的負担の軽減を図る。	4月 補助金交付決定 事業終了後随時 補助金の交付 3月 商店街活性化のためのセミナーを実施

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	3,339	3,339	1,293	3,569	0	0	3,569	0	0	3,569	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,339	3,339	1,293	3,569	0	0	3,569	0	0	3,569	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	共同販売促進事業の支援	580	580	350	各商店街のイベント等へ補助を行った。今後も支援を行う。
②	にぎわい店舗創出事業の支援	295	295	295	商店街が借り上げた店舗の家賃に対し補助を行い、継続的な事業経営を補助を行った。今後、支援の手法を見直す。
③	経営研修等の推進	132	132	100	商業関係者を対象にセミナーを実施した。今後も実施する。
④	商店街共同施設の維持管理支援	2,332	2,332	548	11商店会の街路灯の維持管理費及び商店街の共同駐車場の借地代に対し補助を行った。今後も実施する。
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		3,339	3,339	1,293	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・各商店街(本納サービス会、駅前通り商店街、サンシティ町保商店会、商店会連合会)主催のイベントに対し補助対象経費の補助(1/2)。 ・榎町商店街が借り上げた店舗(2件)の家賃に対し補助対象経費の補助(1/3) ・商業関係者を対象にセミナーを実施した。 ・11商店会の街路灯の維持管理費及び商店街の共同駐車場の借地代に対し補助を行った。

D
O
(
実
施
)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	503010201
5	03	01	02	商店街活性化推進事業	6	01	02	04	商店街活性化推進事業	

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況	29年度成果指標(アウトカム)の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・各商店街等の活性化イベントへの補助 4件 350,000円 ・共同施設の維持管理費への補助 2件 547,883円 ・商店街が実施する空き店舗対策事業に対する家賃補助 2件 295,000円 ・商店街活性化のための研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助対象事業 8件、補助金額 1,192,883円

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	商店街は市民の憩いの場、地域コミュニティとして重要な役割を担っており、商店街の活動支援は妥当である。	A:有効である	商店の数が近年減少している状況など商店街を取り巻く環境が大きく変化しているが、財政的支援は必要と考える。	B:やや効率的である	地域に求められる商店街を持続するという観点から、新たな手段を考えるなど継続して実施していく必要がある。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	茂原市商店会連合会を通じて補助事業の周知を図っている。	A:実現している	商業に関する意識調査(H28年度実施)結果を基に、商業の活性化の支援策を検討した。	A:実現している	茂原市商店会連合会と連携を図っている。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	各商店街のイベント開催を通じて地域経済の活性化に寄与した。また、商店街の街路灯の施設維持により、夜間でも明るさを確保し、安心安全な商店街を形成した。

企画政策課での評価とその理由	
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	商店街の各種イベントへの支援を通じて、商店街の活性化に寄与しており、一定の効果が認められる。引き続き、商店街の環境整備と活性化により、まちの活気と賑わいを創出するものとする。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

30年度活動指標(アウトプット)の設定	30年度成果指標(アウトカム)の設定
補助金の件数及び金額 <ul style="list-style-type: none"> ・各商店街活性化イベントへの補助 ・商店街が管理する共同施設の維持管理費に対する補助 ・商店街が実施する空き店舗対策事業に対する家賃補助 ・空き店舗活用事業に対する改装費補助 ・商業活性化のための研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金額及び支出件数

30年度における具体的な目標	30年度における事務事業スケジュール
商店街が実施する活性化事業を支援するとともに、経済的負担の軽減を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・茂原市の商業振興のため、商店街の事業へ補助を行う。 ・商業活性化のための研修会を実施。

CHECK(評価)

A C T(改善)

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	04	01	01	商工団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	05	商工団体支援事業

実施計画整理番号	
504010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 商工業振興のための事業や小規模事業者の経営又は技術の改善発達のための事業を通じ、中小企業の経営の近代化と地域産業の活性化を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 茂原商工会議所が実施する商工業振興のための事業及び小規模事業者の経営又は技術の改善発達のための事業に対し補助金を交付する。県内商工団体に加盟し、指定団地の高度化、県内経済に関する情報収集、他団体との連携を図る。
平成29年度の具体的な目標 市内商工業の活性化のため、商工会議所の商工振興事業、小規模事業者経営支援事業に対し補助金を交付する。	平成29年度スケジュール 茂原市の商工業、小規模事業者の振興のため、商工会議所の事業への補助を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	8,897	8,897	8,897	8,897	0	0	8,897	0	0	8,897	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	8,897	8,897	8,897	8,897	0	0	8,897	0	0	8,897	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	商工振興事業の支援	6,277	6,277	6,277	商工会議所が行う商工業振興事業の運営を補助し、商工振興を図った。今後も商工業振興のため、補助を継続する。
②	小規模事業所の支援	2,538	2,538	2,538	商工会議所が行う小規模事業者の支援に対し補助し、小規模事業者の振興を図った。今後も小規模事業者の振興のため、補助を継続する。
③	事業環境改善に向けた関係団体への加盟	82	82	82	関係団体の事業を通して、事業環境改善に努めた。今後も、関係団体に加盟する。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		8,897	8,897	8,897	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・商工会議所が行う、商工業振興のための事業に対し、補助金を交付した。
- ・商工会議所が行う、小規模事業者の経営又は技術の改善発達のための事業に対し、補助金を交付した。
- ・関係団体(千葉県指定団体協議会・千葉県経済協議会)の事業に参加した。

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	504010101
5	04	01	01	商工団体支援事業	6	01	02	05	商工団体支援事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況					29年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	・茂原市商工会議所事業補助金 6,277,000円 ・茂原市小規模事業経営支援事業補助金 2,538,000円					・商工業振興に関する支援を受けた事業者数 1,265名 ・小規模事業振興に関する支援を受けた事業者件数 1,770件				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である ・茂原市の商工業、小規模事業者の振興を図るため。		A:有効である ・商工会議所は、茂原市の商工業の経営支援等の専門的な知識を有しているため。			A:効率的である ・商工会議所は、茂原市の商工業の経営支援等の専門的な知識を有しているため。				
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している ・補助金交付要綱をホームページで公表している。		C:実現の余地がない			C:実現の余地がない				
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		・商工会議所の事業により、市内商工業、小規模事業者の振興が図られている。							
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		商工振興事業及び小規模事業所への支援を行ったことにより、中小企業の経営の近代化と地域産業の活性化を図ることができ、成果が認められる。							
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										
ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定					30年度成果指標(アウトカム)の設定				
	・商工会議所事業補助金として、商工会議所の行う商工業振興事業に対し、補助を行う。(補助件数、金額) ・小規模事業指導費補助金として、商工会議所の行う小規模事業者振興の事業に対し、補助を行う。(補助件数、金額)					・商工業振興に関する支援を受けた事業者数 ・小規模事業振興に関する支援を受けた事業者件数				
30年度における具体的な目標					30年度における事務事業スケジュール					
市内商工業の活性化のため、商工会議所の商工振興事業、小規模事業経営支援事業に対し補助金を交付する。					茂原市の商工業、小規模事業者の振興のため、商工会議所の事業への補助を行う。					

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	04	01	01	ビジネス支援の推進

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	02	中小企業者等振興総合支援事業

実施計画整理番号	
504010102	
総合戦略整理番号	11201

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>中小企業経営者や、創業後間もない経営者向けに、販路開拓や経営支援に繋がる、ICT活用セミナーを計画し、新たなビジネスモデル構築や展開を支援する。</p>	<p>ICTを活用した創業支援及び経営安定のためのセミナーを開催する。</p>
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い事業所間のあらたなネットワーク形成に向けた機運の醸成を図る。 取引拡大や経営改善に繋がる交流機会の創出を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスマッチングセミナーの実施(3回)

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,500	2,500	2,498	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	国補助	千円	1,250	1,250	1,248	1,000	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,250	1,250	1,250	1,000	0	0	0	0	0	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ビジネス支援団体の設立に向けた機運の醸成のためのセミナーの実施	2,500	2,500	2,498	異業種の事業所間のビジネスマッチングセミナー(3回)を商工会議所及び市内連携機関と連携し実施した。今後も実施する。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,500	2,500	2,498	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<p>第1回 ワークショップ 第2回 自社紹介プレゼンテーション、ビジネスプラン作成(3チーム編成) 第3回 3チームの事業構想プレゼンテーション</p>

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	04	01	01	ビジネス支援の推進

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	02	中小企業者等振興総合支援事業

整理番号
504010102

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	ビジネスマッチングセミナー参加者数 16社		新たな製品開発の取り組みへの支援件数 1件			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	茂原市の商工業の振興を図るため、茂原市が関与するのは妥当である。	A:有効である	中小企業単独では市内の企業間の交流機会を設定することは困難であるため。	A:効率的である	当該事業のノウハウを持つ業者へ委託し、事業を実施した。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	ホームページ、フェイスブック、で状況を公表している。	C:実現の余地がない		A:実現している	商工会議所や地域金融機関などと連携し取り組んだ。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	ビジネスマッチングセミナー通して事業所間でコミュニケーションが生まれ、事業所間でのネットワーク作りに関して成果が得られた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	平成29年度から開始した事業であり、初年度としては、ビジネスマッチングセミナー等の取り組みにより、一定の成果が挙げられたと認められる。引き続き、中小企業支援等を行い、ビジネスモデルの構築に努めるものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
	ビジネスマッチングセミナー参加者数		新たな製品開発の取り組みへの支援件数	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い事業所間のあらたなネットワーク形成に向けた機運の醸成を図る。 ・取引拡大や経営改善に繋がる交流機会の創出を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域ビジネス連携に関する講演会の開催(1回) ・ビジネスマッチングセミナーの実施(6回) 		

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	04	01	03	中小企業資金融資事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	01	中小企業資金融資事業

実施計画整理番号	
504010301	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要									
PLAN (計画)	<table border="1"> <tr> <th>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</th> <th>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</th> </tr> <tr> <td>中小企業が事業に必要な資金を円滑に融資することで、中小企業の振興と経営の安定化を図る。</td> <td>市内6行12支店の金融機関及び商工組合中央金庫千葉支店に資金を預託し中小企業への資金融資を行う。 茂原市制度融資利用者及び㈱日本政策金融公庫小企業等経営改善資金融資制度利用者に対し、利子補給を行う。</td> </tr> <tr> <th>平成29年度の具体的な目標</th> <th>平成29年度スケジュール</th> </tr> <tr> <td>中小企業の振興を図るよう、融資制度及び利子補給制度の周知を務める。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 各金融機関への預託の実施、3月 預託金の回収。 ・2月 茂原市中小企業融資制度利用者へ利子補給を実施。 ・2月 小規模事業者経営改善資金融資利用者への利子補給を実施。 </td> </tr> </table>	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)	中小企業が事業に必要な資金を円滑に融資することで、中小企業の振興と経営の安定化を図る。	市内6行12支店の金融機関及び商工組合中央金庫千葉支店に資金を預託し中小企業への資金融資を行う。 茂原市制度融資利用者及び㈱日本政策金融公庫小企業等経営改善資金融資制度利用者に対し、利子補給を行う。	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール	中小企業の振興を図るよう、融資制度及び利子補給制度の周知を務める。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月 各金融機関への預託の実施、3月 預託金の回収。 ・2月 茂原市中小企業融資制度利用者へ利子補給を実施。 ・2月 小規模事業者経営改善資金融資利用者への利子補給を実施。
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)							
	中小企業が事業に必要な資金を円滑に融資することで、中小企業の振興と経営の安定化を図る。	市内6行12支店の金融機関及び商工組合中央金庫千葉支店に資金を預託し中小企業への資金融資を行う。 茂原市制度融資利用者及び㈱日本政策金融公庫小企業等経営改善資金融資制度利用者に対し、利子補給を行う。							
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール							
中小企業の振興を図るよう、融資制度及び利子補給制度の周知を務める。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月 各金融機関への預託の実施、3月 預託金の回収。 ・2月 茂原市中小企業融資制度利用者へ利子補給を実施。 ・2月 小規模事業者経営改善資金融資利用者への利子補給を実施。 								

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	548,287	537,383	535,435	547,404	0	0	547,404	0	0	547,404	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	515,000	515,000	515,000	515,000	0	0	515,000	0	0	515,000	0	0
	一般財源	千円	33,287	22,383	20,435	32,404	0	0	32,404	0	0	32,404	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	中小企業資金融資に伴う金融機関預託金	515,000	515,000	515,000	市内金融機関へ融資の原資を預託し、中小企業への融資を行うことで、中小企業の振興と安定を図った。今後も継続する。
②	中小企業融資利用者に対する利子補給	26,078	15,174	15,072	利子補給を行うことで、中小企業の安定した経営、事業の拡大を支援した。今後も継続する。
③	小規模企業等経営改善資金融資利用者に対する利子補給	7,209	7,209	5,363	利子補給を行うことで、小規模事業者の安定した経営を支援した。今後も継続する。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		548,287	537,383	535,435	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業融資の原資として、市内金融機関等へ預託を実施した。 ・茂原市中小企業融資利用者に対して、利子補給を行った。 ・小規模事業者経営改善資金融資利用者に対し、利子補給を行った。

PLAN
(計画)

DO
(実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	504010301
5	04	01	03	中小企業資金融資事業	6	01	02	01	中小企業資金融資事業	

CHECK (評価)	29年度活動指標(アウトプット)の達成状況				29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・市内金融機関への預託 500,000,000円 ・中小企業融資制度利用者補助金 15,072,415円 ・小規模事業者経営改善資金融資利用者補助金 5,363,100円 				<ul style="list-style-type: none"> ・制度融資の利用者数 45件 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	中小企業は、茂原市の経済、雇用において重要であり、資金確保の面でも、積極的に支援していく必要があるため。	A:有効である	中小企業における資金確保を比較的容易にすることで、振興・安定が図られるため。	A:効率的である	中小企業の振興、安定した資金調達の確保のため、継続して行っていく必要がある。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	中小企業融資制度、利子補給についてホームページ、リーフレットで公表している。	C:実現の余地がない		C:実現の余地がない			
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	中小企業者の安定した資金調達の確保及び、利子補給により、中小企業の振興を図ることができた。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	利子補給等、各種取組を行うことで、中小企業の安定と振興が図られており、また、一定の制度融資利用があることから、成果が認められる。引き続き、中小企業の資金確保を積極的に支援していくものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	30年度活動指標(アウトプット)の設定				30年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・市内金融機関への預託及び、中小企業融資制度利用者、小規模事業者経営改善資金融資利用者へ利子補給を行う(利子補給額)。 				<ul style="list-style-type: none"> ・制度融資の利用者数 			
30年度における具体的な目標				30年度における事務事業スケジュール				
中小企業の振興を図るよう、融資制度及び利子補給制度の周知に務める。				<ul style="list-style-type: none"> ・各金融機関への預託の実施 ・茂原市中小企業融資制度利用者へ利子補給を実施。 ・小規模事業者経営改善資金融資利用者への利子補給を実施 ・預託金の回収 				

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	05	02	01
観光振興事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
6	01	03	01
観光振興事業			

実施計画整理番号	
505020101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
観光イベントの充実と広域連携による観光資源の整備により、まちの魅力を向上させるとともに効果的に情報発信することで、年間を通じ本市を訪れる観光客の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・茂原市観光協会、茂原秋まつり運営協議会への補助金の交付。 ・観光ガイドブックや観光大使の活用によるまちの魅力発信。 ・各種関連団体への負担金の拠出
平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
茂原市公式WEBサイト、茂原市観光協会ホームページ、観光ガイドブック等の内容を見直し、新たな本市の魅力発信に努める。	茂原桜まつり(4月)、茂原七夕まつり(7月)、茂原秋まつり(9月)、もばら冬の七夕まつり(2月)、三井アウトレットパーク木更津観光PRイベント(10月、3月)、ぐるっと長生フェスタ2018(3月)、野呂パーキングエリア交通安全キャンペーンイベント(7月)等の実施をする。また、各イベント委員会や担当者会議を定期的に開催する。

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	17,461	18,164	18,065	17,461	0	0	17,461	0	0	17,461	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	110	110	110	110	0	0	110	0	0	110	0	0
	一般財源	千円	17,351	18,054	17,955	17,351	0	0	17,351	0	0	17,351	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市観光協会の支援	2,756	3,459	3,459	桜まつり及び七夕まつりでイベント等を実施した。今後も継続して支援する。
②	茂原七夕まつりの開催支援	10,000	10,000	10,000	関東屈指の夏まつりとして多くの来場者で賑わった。今後も継続して支援していく。
③	茂原冬の七夕まつりの開催支援	3,500	3,500	3,500	閑散期となる2月に冬の七夕まつりを開催した。今後も継続して支援していく。
④	茂原秋まつりの支援	600	600	600	秋のイベントとして定着しており、近年は多くの集客があることから、今後も継続して支援する。
⑤	地域間連携の推進	365	365	326	長生地域観光連盟や中房総観光推進ネットワーク協議会と連携し、今後も継続して各種PRイベントを開催する。
⑥	観光大使によるPR活動	240	240	180	今後もテレビ番組等、各メディアを活用し、本市のPR活動を実施する。
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		17,461	18,164	18,065	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・本市を会場としたノルディックウォークを実施した。
- ・三井アウトレットパーク木更津、幕張メッセ、ZOZOマリンスタジアムにおいてイベントに参加し、本市のPRに努めた。
- ・七夕まつり等イベント前には、海ほたるPAや三井アウトレットパーク木更津において、チラシの配布、パネルの展示等を行い周知活動を実施した。
- ・観光ガイドブックを製作し、海ほたるPA、三井アウトレットパーク木更津(チーバくんプラザ)等に設置し、本市の魅力を発信した。

PLAN(計画)

DO(実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	05	02	01	観光振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	03	01	観光振興事業

整理番号
505020101

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況		29年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
観光ガイドブックを25,000部作製し、商業施設やイベントで配布した。メディアの活用については、テレビ番組2回、ラジオ番組出演3回、観光協会ホームページ、市WEBサイト・SNS(フェイスブック)は随時活用し、本市の魅力を発信した。観光大使については、桜まつり、七夕まつり等、合計6回出演した。		来場者数は、桜まつり80,000人(開催期間内外合計)、七夕まつり850,000人、秋まつり600人(台風直撃により悪天候)、冬の七夕まつり5,500人(イベント期間短縮・イベント日一時雨)の来場者があった。			
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	さまざまな観光事業を展開しており、四季を通して集客のあるイベントを実施する。	A:有効である	観光協会が実施する各種イベント事業は集客力があり、テレビや新聞などのメディアを最大限に活用し実施する。	A:効率的である	観光事業を実施するうえで、観光協会や広域観光連携は欠かせない為、今後も支援が必要である。
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	市WEBサイト、SNS(フェイスブック)、広報、情報誌掲載、ポスター配布、イベントでのPR等により情報発信を実施。	B:実現に向けて取り組んでいる	各イベント委員会を開催し、市民からの意見を取り入れている。	B:実現に向けて取り組んでいる	問題解決に向けて、各イベント委員会を開催している。
所管による評価とその理由、課題・問題点					
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、本市の観光振興という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、関係団体との連携を深める必要がある。				
企画政策課での評価とその理由					
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各種イベントの来場者数は減少しているものの、各種取組により、本市の情報発信の成果が認められる。引き続き、本市の魅力発信を継続し、観光客の増加を図るものとする。				
政策調整会議での評価とその理由					
/					
庁議における方針					
/					

30年度活動指標(アウトプット)の設定		30年度成果指標(アウトカム)の設定	
・観光PRイベント参加回数 ・観光ガイドブック配布数 ・各種メディア活用件数 ・観光大使出演回数		各イベント来場者数	
30年度における具体的な目標		30年度における事務事業スケジュール	
茂原桜まつり(4月)、茂原七夕まつり(7月)、茂原秋まつり(9月)、もばら冬の七夕まつり(2月)、三井アウトレットパーク木更津観光PRイベント(10月、3月)、ぐるっと長生フェスタ2019(3月)、中房総観光推進キャンペーン(6月、2月)、幕張メッセ観光PRイベント(6月)、市原サービスエリア交通安全キャンペーンイベント(7月)等の実施をする。また、各イベント委員会や担当者会議を定期的に開催する。		市WEBサイトの見直し、茂原市観光協会ホームページ、観光ガイドブックをリニューアルし、新たな本市の魅力発信に努める	

CHECK(評価)

ACT(改善)

平成29年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	07	01	02
労政対策事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
6	01	01	02
労政対策事業			

実施計画整理番号	
507010201	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>勤労者に対する福祉事業の支援と厚生資金の円滑な融資により、豊かでゆとりある生活の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 勤労者のための各種福祉対策事業を実施している長生茂原地区労働者福祉協議会に、補助金を交付する。 中央労働金庫茂原支店に融資の原資を預託し、低金利で厚生資金を円滑に融資させる。
	平成29年度の具体的な目標	平成29年度スケジュール
<p>勤労者の福祉の充実を図るため、中央労働金庫へ預託を実行するとともに、長生茂原地区労働者福祉協議会の活動に補助金を交付する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3月長生茂原地区労働者福祉協議会へ補助を行う。 4月中央労働金庫茂原支店への預託を実施する。3月預託金を回収する。 	

区分	単位	H29年度			H30年度			H31年度			H32年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	10,148	10,148	10,148	10,148	0	0	10,148	0	0	10,148	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	10,000	10,000	10,000	10,000	0	0	10,000	0	0	10,000	0	0
	一般財源	千円	148	148	148	148	0	0	148	0	0	148	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	長生茂原地区労働者福祉協議会の支援	148	148	148	勤労者の福祉事業を通じて、勤労者の余暇の活用・生活の充実を図り、また、勤労者相互の親睦融和を図った。
②	厚生資金融資のための金融機関預託金	10,000	10,000	10,000	中央労金への預託により、低金利で、生活資金の融資を行い、勤労者の福祉の充実を図った。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		10,148	10,148	10,148	

平成29年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> 長生茂原地区労働者福祉協議が勤労者の福祉増進のため実施する福祉対策事業に、補助金を交付した。 中央労働金庫茂原支店へ、貸付原資となる資金を預託した。

DO (実施)

平成29年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	07	01	02	労政対策事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	01	02	労政対策事業

整理番号
507010201

29年度活動指標(アウトプット)の達成状況 ・補助金額 148,000円 ・預託金額 10,000,000円	29年度成果指標(アウトカム)の達成状況 ・福祉事業への参加者数 延べ81名 ・融資制度の利用人数 295件	
妥当性の評価とその理由 A:妥当である 預託について、茂原市が原資を負担することは妥当である。	有効性の評価とその理由 A:有効である 勤労者相互の親睦を深めることで、効率の向上が図られ、生活資金融資を低金利とすることで、福祉が充実が図られる。	効率性の評価とその理由 A:効率的である 勤労者相互間の関係性が希薄になる現在において、労働者の連帯が図られる。
「情報の共有」の状況とその理由 A:実現している 中央労働金庫茂原支店を通じて融資制度を周知。	「参加」の状況とその理由 A:実現している 長生茂原地区労働者福祉協議会の活動支援。	「協働」の状況とその理由 C:実現の余地がない
所管による評価とその理由、課題・問題点 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 勤労者の福祉事業(レクリエーション等)を通じて、勤労者の余暇の活用・生活の充実が図られ、勤労者相互間の親睦が深まった。さらに、中央労金への預託金を通じて、勤労者への生活費融資が積極的に行われている。		
企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 融資制度の利用者が増加しており、勤労者の融資制度に対して一定の成果があったものと認められる。引き続き、勤労者の利便性を考慮した融資が受けられるよう、関係機関と連携し、周知に努めるものとする。		
政策調整会議での評価とその理由 (Blank)		
庁議における方針 (Blank)		

30年度活動指標(アウトプット)の設定 ・補助金額 ・預託金額	30年度成果指標(アウトカム)の設定 ・福祉事業への参加者数 ・融資制度の利用人数
30年度における具体的な目標 勤労者の福祉の充実を図るため、中央労働金庫へ預託を実行するとともに、長生茂原地区労働者福祉協議会の活動に補助金を交付する。	30年度における事務事業スケジュール ・長生茂原地区労働者福祉協議会へ補助を行う。 ・中央労働金庫茂原支店への預託を実施する。 ・預託金を回収する。

CHECK (評価)

ACT (改善)